

# ま え が き

ここに、令和2年版宮城県統計年鑑を刊行いたします。

この年鑑は、明治18年に「宮城県統計書」として刊行され、昭和24年から「宮城県統計総覧」、昭和53年から「宮城県統計年鑑」と改題しながら、130余年の長い歴史を持つ総合統計書として、本県の人口、社会、経済、教育、文化など、各分野にわたる基本的な統計資料を幅広く収録し、本県の現状と推移を明らかにしたものです。

我が国の少子高齢化や人口減少、世界の政治、経済社会構造の変化など、我が国をとりまく情勢は大きく変動しています。

本県においては、平成23年に発生した東日本大震災から10年が経過し、この間、県民一丸となって復旧・復興に向けて懸命に努力を続けてまいりました。来年度以降も復興の完遂に向けた体制を維持しながら、震災復興の伝承等に継続的に取り組む必要があります。また、近年は全国的に大規模自然災害が頻発し、さらには、新型コロナウイルス感染症等の様々な危機事案が発生しております。そのため、人口減少・少子高齢化対策、持続可能な地域社会づくりに取り組むとともに、新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済活動の両立を図りながら、時代の変化を捉えた新たな地方創生の実現を目指してまいります。

このような状況の中、多くの事業において、様々な統計が、政策立案のための現状や課題の把握及び事業の進捗状況の確認、効果の検証、さらには将来の予測などの基礎資料として広範に活用されているところです。

この年鑑は、「県民の共有財産」という視点で各種の統計調査を取りまとめたものであり、経済活動や教育・学術研究など、県民の皆様の情報基盤として広く御活用いただければ幸いと存じます。

結びに、本書の刊行に当たりまして、貴重な資料を御提供いただきました各機関及び関係者の皆様に、厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層の御協力を賜りますようお願いいたします。

令和3年3月

宮城県知事 村 井 嘉 浩